



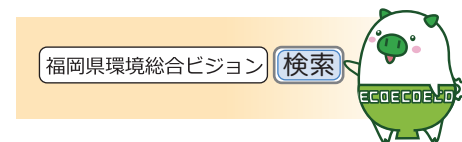
# 地球温暖化防止活動推進員活動と SDGs

## SDGs とは

SDGs とは、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことで、2015 年 9 月、193 の国連加盟国の全会一致で採択された国際目標です。気候変動や格差などの幅広い解決を目指して、先進国も含めた全ての国が関わって解決していく目標と位置付けられています。

SDGs は、社会が抱える問題を解決し、世界全体で 2030 年を目指して明るい未来を作るために 17 のゴールと 169 のターゲットで構成されています。

地球温暖化対策に関連するゴールとして、『福岡県環境総合ビジョン』では重点プロジェクトの 1 つ「低炭素社会の推進」の中で 15 のゴールが関連しているとしています。



## 推進員活動に関連する SDGs

SDGs の 17 のゴールのうち、推進員活動に関連するものとして次の 8 ゴールが考えられます。

地球温暖化対策推進法に基づく推進員の活動は、本法律の目的（法第 1 条）にある国民の健康、人類の福祉への貢献にあることは言うまでもありません（目標 3）。推進員の中にはエコアドバイザー（講師）となって小学生や園児に地球温暖化防止の出前講座を行っています（目標 4）。推進員の中にはうちエコ診断士として、家庭の省エネや太陽光発電等の再エネを提案しています（目標 7）。エコドライブや公共交通機関の利用への市民に対する啓発により交通の安全性改善、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供しています（目標 11）。

また、ごみの減量やリサイクル、食品ロスに関する啓発活動は持続可能な消費に繋がります（目標 12）。推進員活動は地球温暖化防止に関する知識の普及並びに対策の推進であり、まさに気候変動対策の緩和策の普及啓発といえます（目標 13）。森林の適正な管理は、気候変動対策につながるとともに、多様な生態系の保護にも繋がります。推進員の中には陸域生態系の保全に着目した活動をされている方もいます（目標 15）。推進員活動は、福岡県、市町村、NPO、事業者及びセンターとの協働で行われています（目標 17）。

 <b>3</b> すべての人に健康と福祉を	<b>目標3【保健】</b> あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 <b>12</b> つくる責任 つかう責任	<b>目標12【持続可能な消費と生産】</b> 持続可能な生産消費形態を確保する
 <b>4</b> 質の高い教育をみんなに	<b>目標4【教育】</b> すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	 <b>13</b> 気候変動に具体的な対策を	<b>目標13【気候変動】</b> 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
 <b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに	<b>目標7【エネルギー】</b> すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	 <b>15</b> 陸の豊かさも守ろう	<b>目標15【陸上資源】</b> 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
 <b>11</b> 住み続けられるまちづくりを	<b>目標11【持続可能な都市】</b> 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	 <b>17</b> パートナリシップで目標を達成しよう	<b>目標17【実施手段】</b> 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

## SDGs を紐付ける

これまで実施してきた推進員に関する活動がそのまま SDGs の取組につながることもあれば、「持続可能な事業活動」という視点で見直すことによって、各ゴールとの関係性を把握することもできます。このように、自分たちの活動と SDGs を紐付けると、その関係性がより明確になるだけでなく、それを強く認識することで、国際的な目標を自分たちの目標として意識するきっかけになるのではないのでしょうか。

ここでは、先に掲げた推進員活動の SDGs の関連図を「福岡県環境総合ビジョン」に倣って作成してみました。推進員は自ら日頃どのような活動を行っているのか課題を整理し、取組内容を見直す機会にしていきたいと思います。





センター  
発

# エコトン NEWS

突撃！

となりのエコファミリー

## エコして金券 GET！

## 冷蔵庫買い替えのススメ

福岡県が行っている「エコファミリー応援事業」を知ってる？  
電気使用量を削減する、LED や省エネ家電に買換える、グリーンカーテンや断熱シートを設置するなど、家庭のエネルギー使用量を減らすようなエコをして応募すると、**最大 6,000 円分の金券**が抽選でもらえるんだよ！

今日は、昨年度冷蔵庫を買換えた 2 世帯にお話を聞いたよ！

昨年冷蔵庫を買換えたんだね！その時はエコファミリーの取組を報告したの？

もちろんよ。冷蔵庫以外にも、LED も購入したからそれも報告したわ。

私も、冷蔵庫の他にうちエコ診断を受診して報告したら 1,000 円分の金券がもらえたの！

冷蔵庫を買替えてどうだった？

容量も大きくなってたくさん入るし、いろんな機能がついていてびっくりしたわ。

それなのに電気代が安くなって驚いています！今年の夏はあんなに暑かったのに！

えっ！？2 世帯とも電気代が下がったの～？

冷蔵庫を買換えたこの 2 世帯、今年の夏の猛暑でも、去年に比べて電気代が安くなったようです。

7,8 月が特に減ってる！



今回の報告で、削減分と合わせて **1,000 円分の金券**がもらえそう！

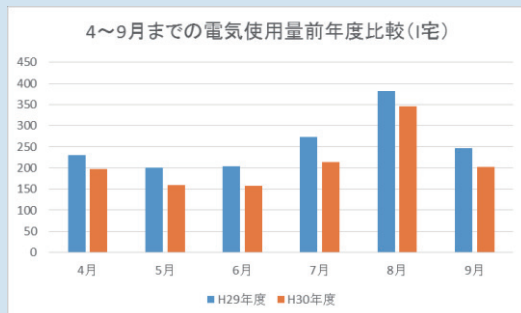
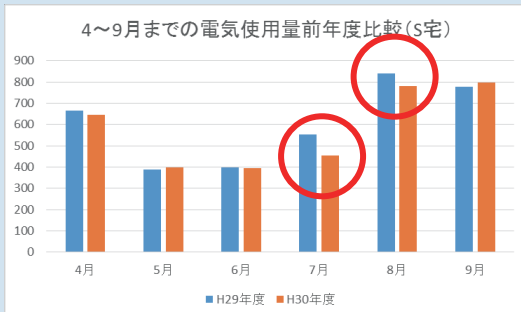


確かにデータを見ても前年より電気使用量は減っています。実は冷蔵庫、10 年前のものと比べて**約 37%省エネ**になっており、年間の電気料金が**約 5,697 円**も安くなるようです（※1）。今なら、買替え報告（領収書の添付）だけでも**500 円分の金券**が当たります。是非買換えをご検討ください！

エコファミリーの登録はこちらから→



※1）参考：資源エネルギー庁「省エネ性能カタログ2017年冬版」15pより試算



## 推進員研修会「気候変動適応等に関する講演会」を開催しました



気候変動適応法が今年 12 月に施行されます。福岡では昨年から 2 年連続して豪雨災害が続き、適応策の重要性が年々高まっています。

そこで、今年の推進員研修会では、国立環境研究所の脇岡靖明氏をお招きし、気候変動の影響、そして適応策の最新情報、適応法などについてご講演いただきました。

日本全国で散見される気候変動による影響（気温上昇、農産物被害等）に続いて、その影響を最小限にするために現在様々な適応策が各分野で進んでいること、A-PLAT では将来の影響予測等の情報整備が進んでいること、また今後はそうした情報等を活用して地方自治体が適応計画を策定することなどをお話いただきました。また、適応策は新たなビジネスチャンスでもあるというのが印象的でした。

発行者 福岡県地球温暖化防止活動推進センター  
(一般財団法人 九州環境管理協会)  
発行年月 平成 30 年 12 月

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1  
TEL : 092-674-2360 FAX : 092-674-2361  
Email : fccca@keea.or.jp

ふくおかエコライフ応援サイトはこちら→



ふくおかエコライフ応援ペーパー

# 減002クラブ

2018  
No.17

## 気候変動の影響への適応

### 気候変動ってなに？

近年、世界各地で異常な高温現象、大規模な山火事、局地的な豪雨などが起こっています。これは地球本来が持っている動きのほか、人間活動による地球温暖化もその原因と言われており、これを「気候変動」といいます。  
「気候変動」によって、洪水や土砂崩れなどの災害を引き起こしたり、住んでいたところで生活できなくなったり、健康に被害が出たりするなど人間生活に大きな影響を及ぼします。



### 緩和策と適応策

これまでの研究で、「このままだと気候変動の影響を受けるリスクがさらに高まる」ことが分かっており、温室効果ガスの排出等を減らすための「緩和策」をやってきました。

しかし、近年気候変動の影響が顕著に現れてきているため、その影響に対処するための「適応策」が急務となっています。

原因物質を減らしながら（緩和策）、影響を最小限にする（適応策）ことが、今同時に求められています。



参考：環境省資料「温暖化から日本を守る 適応への挑戦2012」p10をもとに作成

### 適応法の成立・適応計画の策定

平成 27 年 11 月「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定され、その後法制化に向けた検討がなされ、30 年 6 月「気候変動適応法」が国会で成立しました。

気候変動による影響は国内でも地域によって様々です。今後は地域で起こりうる影響を調べ、どのような適応策を実施すべきかを検討し、地域に根ざした適応計画を策定することが期待されています（すでに策定している自治体もあります）。

### 変わりゆく社会

気候変動による影響はこれからも続くといわれており、私たちは気候変動に適応する社会を作っていかなければなりません。

すでに私たちの生活も変わりつつあります。IoT の普及、徹底的な省エネの家、公共交通機関の脱炭素化（電気、水素等の利用）、ものの所有から共有（シェア）への変化などです。大量生産・大量消費の時代はもう終わります。これからは、資源を有効に循環利用し、CO<sub>2</sub>を排出しないエネルギーで合理的で快適な生活を送る社会へと移行していくでしょう。

私たちのライフスタイルも、環境の変化、社会の変化に「適応」することが求められています。

